ご協力者の親権者または未成年者後見人様

研究概要について

拝啓

名古屋大学医学部保健学科看護学専攻４年別所優希と申します。今回、卒業研究にあたり、きょうだいの有無や出生順位・世代間交流の程度・インターネットの普及による影響によって性格特性への自己認識に違いがあらわれるのかについて明らかにしたいと考えております。

本研究の概要は以下の通りです。ご不明な点等ございましたら【本研究の問い合わせ先】までご連絡ください。

【研究目的】

きょうだい数の違いや出生順位・世代間交流の程度・インターネット普及の影響等によって性格形成に差異があらわれるのかを検討し、それぞれの性格特性をあきらかにしたいと考えております。

【研究の意義・必要性】

近年、核家族化や少子化の進展や、一人っ子の割合の増加が生じている中、子どもが兄弟姉妹や親戚同士、友人同士で遊び、切磋琢磨したり、祖父母等と触れ合うといった機会が減少しています。また、テレビやパソコン、携帯電話の普及によりインターネット上で誹謗中傷やいじめ、有害情報による犯罪などに巻き込まれるなどの問題があるます。またインターネットを長時間利用することで、家族間でお互いへの関心が失われ、自己中心的な人間関係の在り方を助長しているとの指摘もあります。さらに、下山（２００３）は、２０世紀後半以降、臨床場面では行動化を主とする人格障害が増加し、一般の青年においても神経症的な「悩み」が語られることが少なくなったと述べ、一般の大学生の心理的問題も、閉じこもりや無気力、あるいは心身症や摂食障害という身体化も含んだ行動化として表現されることが多くなったと指摘しています。このような問題の要因の一つとして子どもの性格特性の変化があるのではないかと考え、現代の大学生の性格特性の自己認識について明らかにしたいと考えました。子どもの性格を規定する要因の一つとしてきょうだい関係が挙げられ、きょうだい関係が子どもの性格形成に大きなかかわりを持つとされてきたため、きょうだい関係に視点をあてて性格特性の変化があるかどうか考察したいと考えております。

また、看護では患者の性格や家族構成、日常生活での習慣、仕事など患者に合わせた個別的な看護が求められており、性格特性を明らかにすることで患者とのコミュニケーションや性格に合わせた看護を行う上で役立てることができると考えております

【研究対象者として選定された理由】

先行研究として、依田明が 1963 年に行った調査（小学校高学年児と母親が対象）をもとに、女子大生を対象に行った研究(2002 年）があり、その結果においても依田明が行

った性格形成に関する研究と同様の結果を得ており、大学生を対象に調査を行い比較できると考えております。また、男子学生ではどのような特徴があるのか、大学によって違いはあるかについても比較したいと考えております。

【個人情報の保護の方法】

研究で得られたデータは本研究以外では使用せず、個人が特定されないように管理いたします。また、研究の成果を学会や学術雑誌およびデータベース上で公表する際は、個人を特定するような情報は一切発表いたしません。

【本研究への問い合わせ先】

研究責任者　名古屋大学医学部保健学科看護学専攻　発達看護学講座
教授　　浅野　みどり
〒461-8673　名古屋市東区大幸南１－１－２０
TEL/FAX 052-719-3157
メールアドレス　midoria@met.nagoya-u.ac.jp
研究担当者　名古屋大学医学部保健学科看護学専攻
４年　　別所　優希

【苦情の申し出先】　　名古屋大学医学部保健学科　庶務係　TEL;052-719-1504